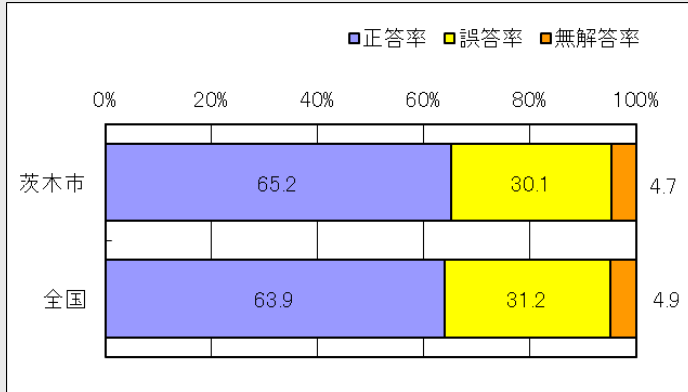


正答率比較

平均正答率は、全国を1.3ポイント上回った

令和8年度 中学校国語 正答率等比較

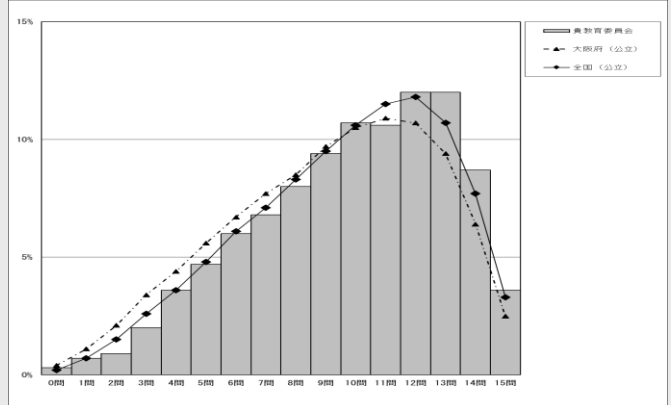


- ◆ 全国の平均正答率が 63.9%であるのに対し、茨木市では 65.2%で、全国を 1.3 ポイント上回った。
- ◆ 誤答率については、全国より 1.1 ポイント低い。
- ◆ 無解答率については、全国より 0.2 ポイント低い。

正答数分布

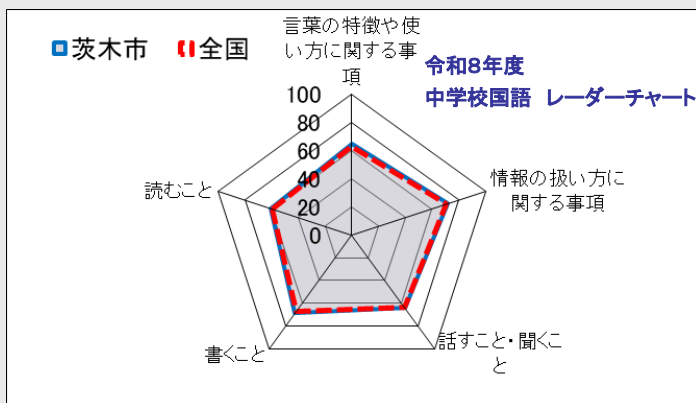
学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である

令和8年度 中学校国語 正答数分布グラフ



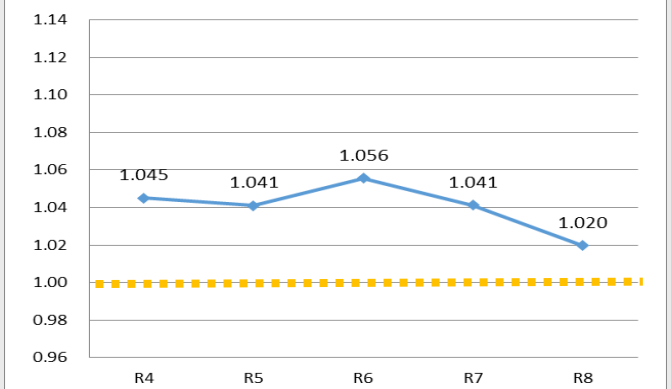
- ◆ 全国は 12 問、茨木市は 12, 13 問正解の生徒の割合が最も多い。
- ◆ 正答率 40%以下(0~6問正解)の生徒の割合は 18.2%である。
(内 20%以下(0~3問正解)の生徒の割合は 3.9%)
- ◆ 正答率 80%以上(12~15 問正解)の生徒の割合は 36.3%である。

領域別



正答率経年比較

過去 5 年の正答率の推移(対全国比)



課題があった設問

二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く。(正答率 41.8%)

- ④ 四 林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、〈具体的な場面〉を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、〈例文1〉と〈例文2〉を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。



〈具体的な場面〉

〈例文1〉(擬態語を使っていない例文)

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」生徒は言った。

〈例文2〉(擬態語を使った例文)

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」生徒はきっぱりと言った。

条件1 〈例文2〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。

条件2 条件1で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

〔正答の条件〕

次の条件を満たして解答している。

- ① 〈例文2〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書いている。
- ② 「きっぱり」について考えたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書いている。

〔正答例〕

- ・「きっぱり」は、生徒が先生に向かって、自信を持って力強く言い切っている様子を表している。このように、擬態語は話している様子の包括的なイメージを表現することができる。
- ・「きっぱり」は生徒が自信を持っている様子が伝わる。擬態語を使うことによって、様子をありありと映し出すことができる。

解 答 類 型		反応率 (%)	正答
1	条件①、②を満たして解答しているもの	41.8	◎
2	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	34.5	
3	条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	2.2	
4	上記以外の解答	4.4	
5	無解答	17.1	

〔解答類型2の例〕

〔例〕

- ・「きっぱり」という擬態語をつかうことによって生徒がたくさん練習をしてきて、発表に自信があるように感じさせる効果がある。
- ・「きっぱり」は何の迷いもなく言い切る様子を表している。擬態語には自分の気持ちをはっきりと表現する効果がある。

☆このように解答した生徒は、〈例文2〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くことはできているが、擬態語の効果について本文中の言葉を使って書くことができていない。本文の叙述を基に擬音語・擬態語について理解することができていないと考えられる。また、本文の内容を踏まえず、擬音語・擬態語についての知識や経験等に基づいて解答したものとも考えられる。

【この問題で求められている力】

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる力

【国語についての今後の指導のポイントとして】

文章を読んで自分の考えを確かなものにするためには、具体的な場面を思い浮かべ、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことと結び付けるなどして、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることなどが考えられる。その際、文章に書かれている大まかな内容について自分の考えを述べることにとどまるのではなく、自分がその文章の内容についてどのように把握したり解釈したりしたかを十分に踏まえ、それを常に確かめながら考えを形成していくことが大切である。